



冬鳥として本州以南の日本海側に多く渡来します。特に石川県の河北潟や片野の鴨池などでは、500羽以上の大群の記録があります。

太平洋側では非常に少なく、過去10年間の本県での記録によると、昨年1月、大洗町夏海湖での36羽が最高の記録とされています。なお、本町・潤沼では、平成19年の19羽が最も多く、23年には1羽の記録があります。

#### ▼主な特徴

コガモよりやや大きく、雄成鳥は約40cmで、顔に黄白色、緑色、黒色から成る巴字形の模様が見られ、それが多くの人々を惹きつけているようです。嘴の基部から媚斑状に後頸に伸びる細

## 里山に育む生きものたち

### 13 トモエガモ

(カモ目 カモ科)

学名 *Anas Formosa*

英名 Baikal teal

写真 / 根本 紀夫

文 / 山口 萬壽美

い白線があり、それが鉢巻をしたように見えるのが特徴です。体の上面は褐色で、肩羽は脇にかかるほど長く伸びていて、側胸から脇は青灰色。胸の脇には白い縦線も見られます。雌は全身が褐色で、黒褐色の斑が見られます。雄がコココ、またはクククッと鳴きます。

#### ▼分布

ロシアのエニセイ川から東、コマンドル諸島までの東北シベリアまで繁殖し、冬は中国、朝鮮半島、日本などへ渡ります。日本では、北海道、本州、四国、九州、ほぼ全国的に湖沼等に渡来しています。

この鳥の生息環境は、トチカガミやアマモ、オモダカ等が生息しているき

れいな湖沼で確認されることが多いようです。湖面では、ハクチヨウ類やマガモ、カルガモ、ヨシガモオナガガモ、コガモ等のマガモ属の個体群と一緒に見られます。毎年同じ湖沼へ飛来しないことが多いので、この鳥をぜひ見たい方は、他の湖沼も探してください。

#### ▼観察ノート

トモエガモが、県内で多くの方々から脚光を浴びるようになりましたのは、那珂市古徳沼での、ハクチヨウの観察者が多くなった頃。珍鳥のトモエガモも飛来し、ハクチヨウ類と一緒に見られるよ、と話題がだんだん広がったようです。それ以外でも、平成7年1月には千波湖で1羽、水戸市楮川ダムで17羽が見られました。

#### 潤沼でのバードウォッチングのお知らせ

主催…(公財)日本鳥類保護連盟

茨城県支部

日時…毎月第3日曜日

午前9時集合

場所…親沢公園駐車場に集合

【問い合わせ先】同支部事務局

☎029(248)4035

☆身軽な服装、双眼鏡、筆記用具などをご持参ください。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス [ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp](mailto:ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp)

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成25年4月1日現在)  
◆総人口 34,213 人 (-108) 男 17,057 人 (-65) 女 17,156 人 (-43) ◆世帯 12,359 戸 (-9)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています